

地域懇談会の結果について

1 開催状況

開催日	会 場	参加者数
1月23日（月）	（本 庁 管内）消防拠点施設	20人
1月25日（水）	（南部支所管内）久慈交流センター	7人
1月29日（日）	（十王支所管内）十王交流センター	13人
	（西部支所管内）中里交流センター	13人
1月30日（月）	（豊浦支所管内）豊浦交流センター	7人
1月31日（火）	（多賀支所管内）大久保交流センター	33人
2月 1日（水）	（日高支所管内）日高交流センター	5人
計		98人

2 主な意見

管内略号（本）本庁、（多）多賀、（南）南部、（豊）豊浦、（高）日高、（西）西部、（十）十王

（1）学校規模について

（複式学級について）

- ・義務教育の中で一番大切な、子ども同士の関わりの中で成長していくことができない。人間関係が固定化され豊かな人間性の醸成は望めない。クラス替えができる程度は必要だ。（南）（十）
- ・指導や教材研究に係る教員の負担が大きい。（西）（十）

（小規模校について）

- ・小規模校は保護者の人数が少ないので、PTA活動の負担が大きい。（南）
- ・子どもたちを丁寧に指導してもらえ。地域と一体となって取り組める。（十）（西）

（子どもたちへのケア）

- ・統廃合は必要だが、学校適正配置について検討していることが広報されると小規模化に拍車がかかることもある。その間の子どもたちへの配慮が大切だ。（南）

（2）クラス規模について

- ・教員の経験から、学級の人数は30人以下が良い。（南）
- ・特別な支援が必要な子どもたちが増えている。特別支援学級在籍の児童が通常の学級で授業を受ける（交流学級で過ごす）ことを考えると、通常学級の人数は25人程度が適正である。（多）

（裏面に続く）

(3) 通学・学区について

(通学)

- ・学校が遠くなると、子どもの送迎などの保護者の負担が大きくなるので、児童クラブの迎えの時間、スクールバスの運行などに配慮してほしい。(高)(十)

(学区)

- ・部活動の選択肢が多い大きな学校へ行ってしまう。学区を見直して人数の偏りをなくしてほしい。(南)
- ・学区を見直す際は、地域住民の意向に配慮してほしい。(多)
- ・小学校と中学校の学区が合っていないため、中学進学時に小学校の友達と別れてしまう。同じ中学校へ進学できるように学区を見直してほしい。(多)

(4) 小中一貫教育

- ・他市町村で取り組んでいる小中一貫教育を、日立市で行う考えはないか。
- ・(中1ギャップの解消などで成果を上げている)小中一貫教育の良いところを市内の学校に活かしてほしい。

(5) 地域と学校の関わり

- ・学校の適正配置(学区の再編)によって、コミュニティ組織が活動しにくくならないようにしてほしい。(本)(多)(豊)(十)
- ・学校を通して地域がつながっている。統合されると、地域の連携・存続ができなくなる。(多)(十)
- ・小中一貫教育校にして存続するなど、学校を減らさない努力をしてほしい。(多)

(6) その他

(財政面)

- ・統廃合により余剰となった予算は、教育の充実に向けるべきではないか。(本)
- ・子どもが少なくなることは想定できたはず。これまでに学校の改築等に投じた費用を子育て支援に向けられたのではないか。(多)

(人口減少)

- ・学校が無くなることは、人口減少に拍車を掛け地域を衰退させる。(多)(西)(十)
- ・学校を減らすより、人口流出を減らす方策を考えるべきだ。(本)(多)(十)

(その他)

- ・何年後を見越した計画を作るのか。(本)(多)(豊)
- ・統廃合の検討が遅い。(多)(南)
- ・日中の時間帯など、地域懇談会の開催時間を工夫してほしい。(南)(高)
- ・参加者が少なく、関心が低い。計画策定中に関心を高める努力をしてほしい。(多)(南)
- ・教職員のアンケートへの回答率が低い。(本)(南)(西)